

令和3年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 友達への思いやり	3 道徳・心の教育の充実
<p>学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。</p>	<p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p>
<p>1. 「一人一人の児童の尊重」については、保護者の「そう思う」の割合33%と昨年と比較してあまり変わりなく低い。児童の「そう思う」の割合は50%から49%とあまり変わらず、教職員の「そう思う」の割合は、35%から49%と増加した。児童との対話を通して児童理解を深め、個に応じた指導がなされてきている。学校での取組を保護者に丁寧に伝えるなど個に応じた対応をしていきたい。</p> <p>2. 「友達への思いやり」については、保護者・児童・教職員すべてにおいて、90%以上が思いやりの心が育っていると感じている。しかし、「そう思う」の割合は、保護者・教職員においては低い。授業や学校生活の中で、相手を思う気持ちや行動を認めることを継続し、思いやりの心の育成に努めたい。</p> <p>3. 「道徳・心の教育の充実」については、保護者の回答の傾向は昨年度と変わらず肯定的である。しかし、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」という意見が9%あり、コロナ化で、授業参観や地域との交流ができなかったことが一因だと考えられる。心かがやけ月間や親子道徳の日の充実を含め、心の教育に係る取組をさらに工夫していきたい。</p>		

②確かな学力を育む教育の推進

4 意欲的な学習態度	5 授業力向上	6 ICT活用
<p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<p>子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。</p>
<p>4. 「意欲的な学習態度」については、教職員と保護者・児童との評価にやや差が見られる。これは、タブレット端末を積極的に活用するようになり、教職員から見ると、児童は意欲的に取り組んでいるように見えているが、実際のところ、機器の操作や学び合いなどの効果的活用で課題があることが伺える。校内研修等に授業改善を位置づけ、学習の内容や方法等充実をさらに図り、児童の主体的な学びを保障していきたい。</p> <p>5. 「授業力向上」については、教職員・保護者に比べ児童の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合がわずかに低い。これは、ICTを効果的に活用した授業改善を進めながらも、理解が不十分でわかる喜びを十分に感じていない児童が一部いることの現れと捉える。ノートの取り方の指導や補充学習・家庭学習の充実を図り、学力の定着を図っていきたい。</p> <p>6. 「ICTの活用」に関しては、どの項目においても90%を超えている。とくに、児童の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合は95%と高い水準にある。これは、ICT機器について教職員間の情報交換や研修等が充実してきたことが一因であると考えられる。今後、さらに研修や機器の操作等についての理解を深めることで児童の活用力の向上につなげていきたい。</p>		

③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり	8 児童生徒理解	9 いじめや問題への対応
<p>子どもは、好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>	<p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとして努めていると思いますか。</p>	<p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>
<p>7. 「健康づくり」については、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」との回答は昨年とほぼ同じである。コロナ禍でメディアとの接触時間が増え長くなっており、生活習慣を改善するために家庭とも連携し、学校保健委員会やあらゆる機会を利用して、より効果的に指導や取組を継続して行っていきたい。</p> <p>8. 「児童生徒理解」については、保護者の回答において、肯定的なものは昨年度と変わらない。学級通信や学級懇談会、連絡帳など様々な方法で学校での取組や児童のよさを伝えた結果と考えられる。今後も継続して、児童のよさに本人自身が気づくことができるような声かけを意識して行っていく必要がある。</p> <p>9. 「いじめや問題への対応」については、全体的に肯定的な回答が多い。児童・教職員・保護者ともに昨年度と変わらない。いじめ発覚後、職員が連携を図り、複数体制での聞き取りや指導等の対応をとるとともに、保護者への報告をスムーズに行ってきた成果であると考えられる。今後も、チームでの対応を基本とした体制を整えていきたい。</p>		

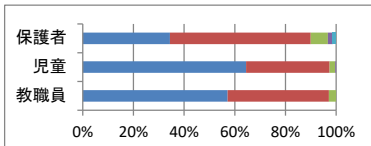
④特別支援教育の推進

10 学校の支援体制	11 共生社会を担う人材の育成
<p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>	<p>「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。</p>
<p>10. 「学校の支援体制」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が教職員が97%、保護者が89%だった。校内委員会を中心に、日頃から支援の必要な児童について共通理解を図りながら、支援体制づくりや教育相談を行ってきたことが結果につながっていると考えられる。課題としては教職員に比べ保護者の認識が低いことがあり、教育相談等の情報提供や充実、懇談会などでのお知らせなど周知の取組を行ってきたい。</p> <p>11. 「共生社会を担う人材の育成」については、教職員の97%、児童の90%が、「交流及び共同学習」を肯定的に感じていることが分かった。担任同士が連携して交流及び共同学習に取り組んでいることが、良い結果につながっていると思われる。保護者も88%が肯定的にとらえているが、「そう思う」が23%で「どちらかといえばそう思う」が66%となっており、交流の様子や成果がはっきりと分かりにくい面があると思われる。情報発信する機会をより多くつくってきたい。</p>	

①子どもたちの身近な安全対策の充実

12 安全と事故防止

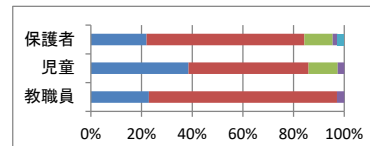
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。



12.「安全と事故防止」について保護者の約1割が不安を感じておられるのは、登下校中や地域での子どもたち危険な行動を心配し連絡をいただいた事実からも推測できる。連絡を受けて、学校では全職員の共通理解の元に児童への指導を繰り返し行ってきたことで、児童の安全面に対する意識も少しずつ向上している。今後、指導の状況を通信や懇談会等で保護者にも知らせ、家庭や地域との連携を深めていく必要がある。

13 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

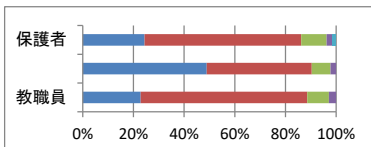


13.「施設・設備の安全管理」については、全体的に肯定的な回答が多い。しかし、施設・設備の一部には老朽化が見受けられることから、毎月の安全点検を確実に行うとともに、結果を受けて、学校主事や事務との相談により迅速な対応に努め、安全な学習環境の整備に努めていきたい。

②最適な学習環境の整備

14 教育方針・目標の理解

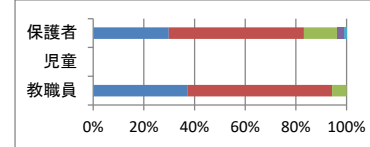
学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



14.「教育方針・目標の理解」については、保護者、教職員の回答の傾向は昨年度と同じで肯定的な意見が8割強を占めた。今年度も、休校期間中のお知らせや連絡事項等の情報をホームページや安心メールで発信した。学校からの情報発信として、今後も継続的な学校ホームページの更新、安心メールを効果的に活用していきたい。

15 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

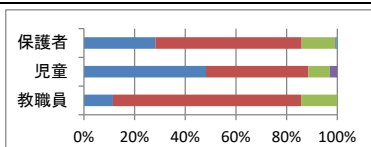


15.「家庭や地域との連携協力」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した保護者が約8割、教職員は9割強であった。肯定的な回答が年々減ってきている。一昨年から地域との交流の機会が減ったためだと思われる。今後は、サマースクールや地域交流またはそれらに代わる活動等において、地域の方との交流方法を模索し、開かれた学校づくりの推進に努めたい。

⑧本校の教育

16

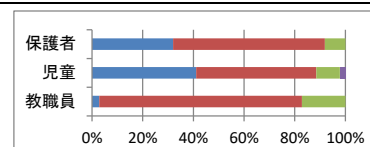
子どもは、きちんとあいさつができていますか。



16.「子どもは、きちんとあいさつができていますか。」では、挨拶について、保護者と児童の回答は昨年度とあまり変わらなかった。教職員の回答では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が増加している。生活安全委員会による挨拶名人の取組や、挨拶ボランティアなどの取組によるものと考えられる。進んで気持ちのよい挨拶ができるよう指導に努めたい。

17

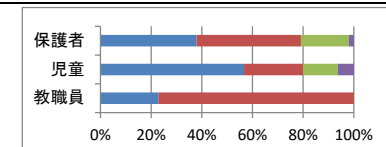
子どもは、きまりやマナーを守っていると思いますか。



17.「子どもは、きまりやマナーを守っていると思いますか。」では、きまり・マナーについて、保護者と児童の回答は昨年度と比較してほとんど変わらなかった。一方、教職員の回答では「どちらかといえばそう思う」の割合が増加している。定期的に開催する生徒指導部会で、すべての職員がきまりについて共通理解し、共通実践してきた成果だと考えられる。今後も継続した指導をしていきたい。

18

子どもは、すすんで外遊びやスポーツをしていると思いますか。



18.「子どもは、すすんで外遊びやスポーツをしていますか。」では、教職員は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が100%である。保護者や児童もおよそ80%は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答し、「そう思う」の割合はいずれも教職員より高い。新型コロナウイルスが年末にかけて落ち着き、外遊びができる環境に戻っていったことが理由と考えられる。委員会の取組や環境整備を進め、今以上に運動に親しめる環境づくりに努めていきたい。

来年度の具体的な取り組みについて

- 全職員が児童の様子を気にかけて、日常観察や「川上つ子アンケート」で心の変化や悩みをつかむとともに情報を共有し、児童理解やいじめ等の諸問題に素早く取り組む。
- 全国学力調査、熊本市学力検査の結果を分析し、わかる授業、楽しい授業になる授業改善を意識し、ICT機器の効果的活用や教材開発に努めていく。また、タブレット端末を利用した個別学習をはじめとする個に応じた学習のさらなる徹底を図っていく。
- 新型コロナウイルス感染防止のために、日常的に「マスクの正しい着用」、「換気」、「手指消毒」、「蜜を避ける」や活動内容の点検等を行うとともに、積極的に家庭への啓発を行っていく。また、各家庭と連携を図りながら、学校保健委員会での話し合いをもとに、食事や睡眠等について効果的な指導や取組を継続していく。
- 校内委員会や生活朝会を効果的に活用し、児童の実態について職員で情報共有する。また、保護者の教育相談を常に受け入れることができる体制を整える。
- 校区内を走る基幹道路のため交通量が多く不審者事案の報告もある。安全協議会等、地域の諸団体と連携を密に行う。さらに、安全教育の徹底を継続する。
- 教育目標・方針については、さらに分かりやすく、学校ホームページ、安心メール、各種便り、PTA新聞、各種団体との会議会あらゆる機会を通して情報発信に努めていく。
- 挨拶運動やきまり・マナーについて、生徒指導部を中心に家庭と連携を図りながら、学校全体の規範意識を高めていく。

学校関係者評価

- ICT活用はタブレット化が進んでおり、その点は評価できると思うが、児童の真の理解力を計っていく上では、ペーパーベースでの記入、ノート活用の徹底を図り、書かせて覚える習慣づけは必要なことだと思う。
- 行事に関して、コロナの影響のある中、臨機応変に対応をしていただき、感謝しています。タブレットの活用をもっと円滑にできれば良いと思います。(遠隔授業の在り方等)
- 学習面では時代に沿ったICT活用した授業が取り組まれています。今後もICT機器の効果的活用で「楽しい授業」「わかる授業」「学校に行きたい授業」を取り組み継続して頂きたいと思えます。いじめ不登校への対応については引き続きスムーズの対応をして頂き、子どもたちの日常観察をよろしくお願致します。最後に新型コロナウイルスの影響で大変な状況の中で、子ども達のために様々な感染対策を講じながら、安心・安全にいつもご指導いただきありがとうございます。また、子どもたちが楽しく学校に通っていることをとても嬉しく思います。
- 川上校区は昔から地域全体で子どもの健全育成を支援し見守るという意識の強いところですが、ここ2年間はコロナ禍により様々な地域活動や事業が開催できず何もできない状況です。学校においても、学級閉鎖、オンライン授業の取り組みなど通常と違ったご苦労の多い中、先生たちはよく頑張っていたと感謝しています。
- 資料の2.7.10.18等の特に保護者と教職員の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の意識の差が大きいように感じられる。今後、説明やアピールなど検討されてもよいかと感じた。
- NO.2.4.7.9.10が保護者と先生の評価が乖離しているのが気になる。もう少し掘り下げてリサーチ・マネジメントする必要があります!!コロナ禍でオペレーションが難しいと思いますが頑張ってください。
- 最近小学生の挨拶が下手になっていると感じる。川上小学校は挨拶も校風に入れていると思うので、気持ちの良い挨拶にも取り組んでほしい。コロナになり小学生送迎の車が増え、当園前十字路が危ない。飛び出しも目撃したので小学生だけでなく保護者にも啓発してほしい。